

1 概要

観光地や交通空白地において、持続可能な交通手段を維持確保する必要があることから、地域の事業所（宿泊施設、各種学校等）が保有する送迎車両の現状を調査することにより、潜在的な輸送資源として活用できないか可能性を調査する。

2 調査事業の背景

- ・バスやタクシーの減少や運転手不足等により、住民の移動に不便を生じている。また、増加する観光需要に対して移動手段の確保も課題となっている。
- ・有効な対策の一つとして、共助型交通をはじめとする公共ライドシェアが考えられることから、様々な業種の関係者が連携し、その地域にある資産や人材を効果的に活用できないか調査を行う

3 事業内容（案）（県予算で実施を計画）

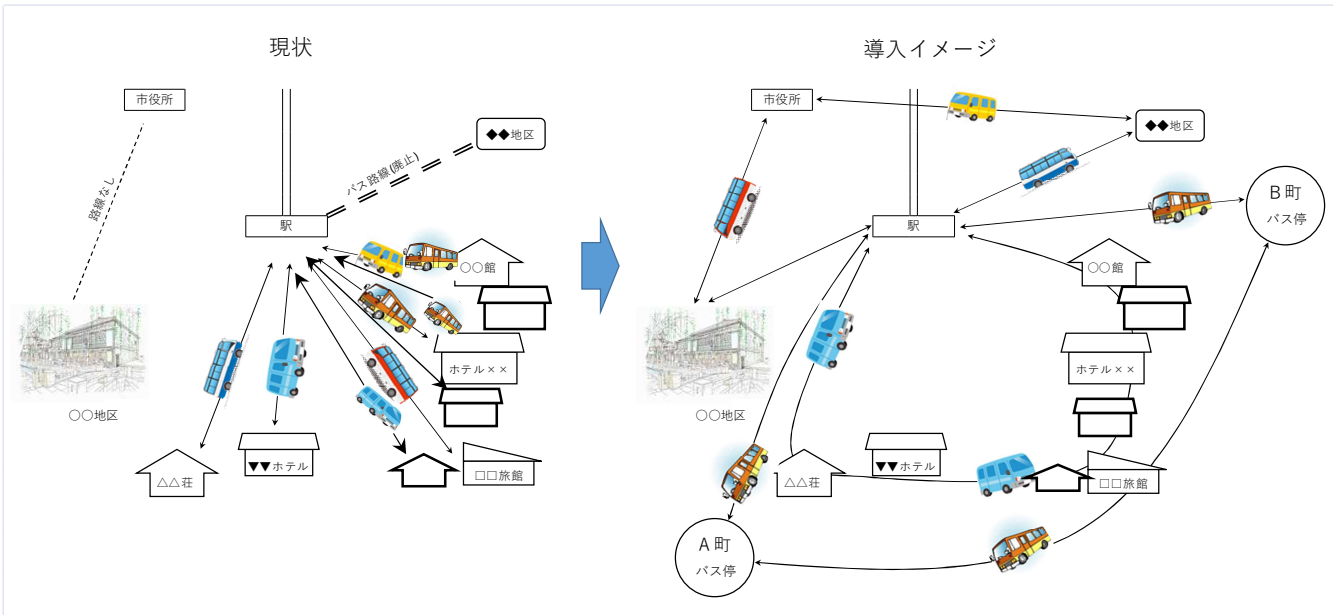
鉄道駅やバス停の交通結節点で、乗降する旅行客を対象とした事業所（宿泊施設等）の送迎について、宿泊施設等のグループによる送迎を導入・効率化するとともに、余剰車両活用による自治体や団体等による公共ライドシェア等の導入についてモデル調査を行う。

多様な地域交通資源活用調査事業費

事業費	10,000 千円
調査地域	賀茂地域等（下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町での広域を想定、観光地であり過疎地である地域）
調査対象	・ホテル・旅館業者の送迎車両 ・各種学校（自動車学校等）のスクールバス ・福祉施設・温浴施設等の送迎車両 ・上記施設に所属する運転手 等
調査等の内容	・共同運送に対するホテル・旅館業者等の意識調査 ・導入可能地域の洗い出し ・競合可能性のある交通事業者等ヒアリング ・利用者（移動困窮者等）アンケート ・路線検討（市町またぎ、経由施設） ・関係自治体による検討会の実施
実施主体	伊豆地域公共交通活性化協議会（予定）
費用負担	全額県負担金のため市町及び事業者負担なし（事業実施への協力のみ）
備考	本調査の手法や調査データを参考に、他の観光地や過疎地域にも応用・展開するモデル調査とする。

【導入イメージ】

- ・バス（自治体所有、学校用、宿泊施設等の送迎バス）の活用、運転手の確保
- ・貨客混在輸送、同方向への乗り合い輸送による地域交通の確保・活性化



(参考) 制度改正により、使いやすくなった公共ライドシェア等の例

観光地における宿泊施設の車両の共同使用の促進

- 宿泊施設が所有している車両について、使用されていない時間帯に自治体等自家用有償旅客運送の実施主体に提供し、ホテル間の運送や地域住民等の運送に活用することが可能であることを通達上明記



「時間帯による空白」の概念の取込み

- 「交通空白地」の目安を数値で示すとともに、夜間など「時間帯による空白」の概念を通達上明記

